

## 平出城跡現地説明会を開催しました。

財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センターでは、栃木県の委託を受け、宇都宮市平出町地内にある平出城跡の発掘調査を行っています。平成22年2月13日に行われた現地説明会では、130名の参加がありました。



雪の中、多くの参加者が見学しました。



遺物の説明にも熱心に耳を傾けています。

以下、現地説明会資料です。

# ひら いで じょう あと 平 出 城 跡

－緊急地方道路整備事業主要地方道  
宇都宮向田線平出・板戸工区に伴う記録保存調査－

宇都宮市平出町地内

現地説明会資料 平成 22 年 2 月 13 日

栃木県教育委員会

栃木県宇都宮市埴田 1-1-20 TEL028-623-3425

財団法人とちぎ生涯学習文化財団 埋蔵文化財センター

栃木県下野市紫 474 TEL0285-44-8441

## はじめに

平出城跡は、伝承によれば承元 3 年（1209）、宇都宮朝綱の家臣、鈴木八郎重定が築いたとされる城館です。この地域には、「御城」「中城」「北(城)」「東門」「バンバ(馬場)」「立堀(たてぼり)」「宿(しゆく)」などの屋号を持つ家のあることが知られていましたが、城館の歴史や規模などは、ほとんど分からない状態でした。

栃木県教育委員会では、緊急地方道路整備事業主要地方道宇都宮向田線平出・板戸工区建設予定地が平出城跡に近接するため確認調査を行い、城館に関する施設がある可能性が高いと判断し、記録保存調査を実施することになりました。平成 21 年度の調査対象面積は 10,840 m<sup>2</sup>、発掘調査は、財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センターに委託し実施されることになりました。

## 歴史資料（『宇都宮史』中世史料編より）

- 「旧臣姓名書」 慶長二年に書き写され、旧家臣 1,406 名の名前と居住する村名が記されています。慶長二年は宇都宮国綱が、豊臣秀吉により改易された年です。その中には、「上平出村 鈴木次郎兵衛 下平出村 郷間丹右衛門 平出弥助」の名が見えます。
- 「宇都宮記」 この中の「宇都宮国綱田下山\_城築事」には 49 名の城主中に「平出の城主川馬主計主掾」が記されています。
- 平出文書 「宇都宮国綱書状」は、慶長三年（1598）、平出半左右衛門が、西国の宇喜多家預かりの身になった国綱の元へ、早々に駆けつけた感謝状が残されています。

## 発掘調査の概要

- 1 調査は城館の外郭堀との説がある用水を挟み、幅約 25m、南北約 400m(中央の未調査区は除く)を対象に実施しました。
- 2 調査区は便宜上、道路で区切られた南部を 1 区、その北を 2 区、未調査地区を挟んだ北側を 5 区としています。
- 3 1 区は「立堀」の屋号を持つ家の南西に位置し、「宿」の屋号を持つ家の東 60m 付近にあたります。調査の結果、方形竪穴・掘立柱建物・小穴・井戸・長方形土坑・墓・溝などが確認されました。小穴は 1002 基あり、掘立柱建物の柱穴と見られることから、長期間に何棟もの建物が営まれていた地区と考えられます。
- 4 2 区は、「東門」「バンバ」の屋号を持つ家の間です。調査の結果、方形竪穴・掘立柱建物・小穴・地下式坑・井戸・長方形土坑・溝・堀などが確認されました。調査区北には現用水に沿うように幅約 3m・深さ約 1.8mの堀が見つかり、その南には 12 間×1 間の南北に長い掘立柱建物が一棟認められました。調査区中央には東西方向の堀があり、調査区の西付近で立ち上がっています。この堀の北側には土塁があったことが土層から確認されました。この東西方向の堀の南側には、10 間×2 間の南北に長い掘立柱建物が 2 棟並んで存在し、その西側は遺構密度が薄いことが分かりました。また、この調査区からは、住まいや作業場などの説がある方

形竪穴や、貯蔵庫や埋葬関係施設との説がある地下式坑などが多く見つっています。

- 5区は用水堀の東側にあり、自然の谷が2条認められました。遺構の数は少なく、長方形土坑や墓などが見つかりました。
- 主な遺物は、中国から輸入された青磁・白磁の破片、土鍋（ほうろく）である内耳土器片・かわらけ・砥石・石臼・五輪塔などが出土し、15～16世紀代のものが中心です。



平出城跡周辺図

現在の地図に、昭和22年(1947)10月25日撮影の米軍航空写真を重ね、当時の水路や畔境などから、谷や区画を推定しました。御城のように線で囲まれたものが屋号、屋号を持つ家周辺の太線は境界を表しています。また、図中央の中太線で囲まれた範囲が発掘調査区、太点線は推定平出城跡の範囲を表しています。